

「新・人間裁判」の13回口頭弁論・地裁前集会での決意表明を紹介します。



東区の高橋昭三郎と言います。長い間、ボーリング会社や中古設備や機械の販売会社で働いてきましたが、40代後半から体調が悪化し、寝込むことが多くなり、仕事ができなくなりました。そのため、52才から生活保護を受けて、すでに20年以上が経過しています。現在73才で、一人暮らしをしています。

生活保護の生活は、基準引き下げ前からたいへん厳しいものでしたが、2013年からの3年連続の引き下げと、その後の冬季加算などの引き下げによっていっそう深刻になりました。

私が生活保護を受けることになった理由が病気で働けなくなったということもあり、病気の治療と健康の維持を最も重視して生活して来ました。主な病気は掌足底膿疱症とそれに由来する糖尿病ですが、医者から指導されたのは食事療法です。医者や栄養士から指示された食事療法と言うのは、それぞれの人に見合ったカロリー摂取量を設定し、それを炭水化物、タンパク質、脂質、植物繊維などからバランスよく摂取すること、毎日28種類以上の食品をとることなどです。28種類以上の食品をとると言うのは、とても難しいことです。医者からは「食事療法をキチンと続けなければ、いのちが危なくなりますよ」と厳しく言われました。それ以来、私は医者の指導を守った食生活を最優先させてきました。しかし、生活保護費の中で医者の指示を守るのは、とても大変です。当たり前のことですが、必要な食材をいかに安く買い、それを無駄なく使うかが基本です。そのためにはスーパーなどの安売りがたよりです。「スーパーの

安売りは生活保護だけでなく、多くの人が使っているから特別なことではないよ」とよく

よく言われますが、私は時々安売りを利用するとか、一部の品物だけ安い物を買うのではなく、1年中いつも安売りばかりです。たまにおいしいものを食べたいから少し高いものを買うとか、友人に誘われて外食をするということは全くありません。スーパーの安売りは火曜だけとか、なん日だけと決まっているわけではありません。予告のない日や時間帯にもされることも多いので、私は数カ所のスーパーをほぼ、毎日のように回っています。そこで、野菜や果物の見切り品、非常に低価格の冷凍カット野菜、50%値引きの魚や鶏肉、1個33円のおにぎりなどを買っています。買ったものは調理、小分けして冷凍保存やそのまま保存をして、医者の指導にあった組み合わせで食べるようにし、ゴミや食べ残しはほとんどありません。

どんなに安売りを利用しても、きちんとした食事療法を実施するにはそれなりのお金がかかります。私は食費はいくらまでと決めてはいません。「保護費が減ったら食費を節約する」という人が多いですが、私は食費を節約して病気を悪化させたくないから食費を節約できません。そのため節約するのは衣服や交際費、教養娯楽費などになってしまいます。

2013年から3回の引下げで、私は毎月3270円保護費が引き下げられました。引き下げ前でも節約に節約を重ねた生活なのに、さらに3000円以上切り詰めた生活を強いられてきました。ところが厚生労働省は、来年度からまた最大1割程度の生活扶助費引き下げをするといわれています。これではとても憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」は考えられません。これ以上の引下げは絶対認めるわけにはいきません。

**ニュースは必ず原告
に渡して下さい**

2017年12月27日 156号

生活保護制度を良くする会

ニュース

事務局 道生連
電話 011-736-1722
ファックス 011-736-1688
メー ル seihoikusurukai@herb.ocn.ne.jp

裁判も長くなってきましたが、これからも原告のみなさんはもちろん、多くの「生活保護受給者、国民と一緒にになって裁判を闘っていくつもりです。

私は、小樽から一回も休むことなく裁判に来ていた後藤正澄です。



12月13日、小樽の「守る会」の事務所に来て北海道新聞を読んで、「いよいよ来たな！」と思うと同時

に、新聞を読む中で怒り心頭に来ました。安倍政権そして財界の本音が出てきたと思いました。これまでも第1・十分位、つまり「年収を低い方から高い方に並べ、下位10%の消費水準を基準とし、生活保護基準がこの水準を上回っ」ていることを根拠にしました。これは、生活保護を第1・十分位まで引き下げを宣言したことだと思いました。ようするに生活扶助を年収（可処分所得）80万円以下に抑え込む狙いだと思います。「健康で文化的な生活」でなく、極貧層の生活でガマンせよ！ということだと思います。

今日からの公判は、本当に私たちの裁判闘争の真髓に入っていくものと思います。だから去年取り組んだ実態調査にも、悪い頭をひねくり回して、私の生活の実態を書きました。その時はこれが闘いだとは思わなかったけれど、今あらためて闘いなんだと実感しています。

みなさん、あらためて兜の緒をしめなおして頑張りましょう。